

## 音楽科における言語活動

### 「A表現」領域の学習

創意工夫して表現する力

### 「B鑑賞」領域の学習

味わって鑑賞する力

### 音楽表現や鑑賞の学習を充実させるための言語活動

常に音や音楽を伴った学習活動をする中で  
思考・判断の過程や結果を言語活動等で表す

#### 「A表現」

このようなイメージや思いを表したい  
から、このように歌いたい、演奏したい、  
音楽をつくりたいといった自分の考え  
(思いや意図) をもち、言葉で表す。

#### 「B鑑賞」

「この音楽にはこのような特徴がある。  
その中でも私が気に入ったところやその  
音楽的な理由は…」といった自分の考えを  
もち、音楽に関する用語などを適切に用いて  
言葉で表す。

### 音楽科における思考力・判断力・表現力を育成する授業

#### 「A表現」領域

- ②音楽表現を工夫し (思考)
- ③創意工夫を生かした音楽表現をするために  
必要な技能を身に付け
- ④どのように表すかについて  
思いや意図をもち (判断)
- ⑤歌唱・器楽・創作で表す (表現)**

#### 「B鑑賞」領域

- ②解釈したり価値を考えたりして (思考・判断)  
感じたことを言葉で説明したり、  
根拠をもって批評したりする (表現)
- ||
- ③よさや美しさなどを味わって聴く**

〈音楽的な感受〉①【共通事項】アの学習を支えとして

#### ア 音楽を形づくっている要素

音 (音色)、時間 (リズム、速度)、連なり・重なり (旋律、テクスチュア)、  
音量 (強弱)、形 (形式、構成) など

## 音楽科における思考力・判断力・表現力等

音楽科では、「音楽表現の創意工夫」と「鑑賞の能力」の観点が、音楽の特性に即した思考・判断・表現等に深くかかわる観点である。美的情操を養う観点から、「A表現」領域と「B鑑賞」領域のいずれの活動においても〈音楽的な感受〉を大切にして、美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る力の育成が求められる。この〈音楽的な感受〉に相当する指導内容が、学習指導要領に示されている〔共通事項〕アであり、「音楽を形づくっている要素を知覚する」とことと「それらの働きが生み出す雰囲気などを感受する」とことである。

「A表現」領域では、創意工夫して音楽表現をする力を育成するために、〔共通事項〕の学習を支えとして、音楽表現を工夫し、必要な技能を身に付け、どのように表すかについて思いや意図をもつ過程を大切にする。そしてその思いや意図を、歌唱・器楽・創作で表すこととなる。

「B鑑賞」領域では、味わって聴く力を育成するために、〔共通事項〕の学習を支えとして、音楽を解釈したり価値を考えたりする過程を大切にする。そして、感じたことを言葉で説明したり、根拠をもって批評したりする。

## 音楽科における言語活動の充実

「A表現」領域では、音楽に対するイメージ、思い、意図などを相互に伝え合う活動を位置付けて、仲間とともに創意工夫して音楽を表現する喜びを味わうようにしたり、歌詞の内容や言葉の特性を生かして歌ったり、日本語のもつ美しさを味わったりする学習活動を充実する。

「B鑑賞」領域では、鑑賞した音楽の音楽的な特徴などを理由として挙げながら音楽のよさや美しさなどについて述べる活動を位置付けて、音楽に対する様々な感じ取り方があることに気付かせたり、一人一人の音楽に対する意識を広げたりする学習活動を充実する。

なお、音楽が表現している内容（音楽そのもの）について、その全てを言葉に置き換えて表すことはできないが、音楽の表情や雰囲気などを何らかの言葉で表そうとすることによって、生徒が一層音楽と向き合うこととなる。また、適宜、音楽に合わせて体の動きで表したり、聴き取ったり感じたりしたことなどを図や絵、線などで表したりして思考・判断したことを可視化し共有することも、有効な手立てであると考える。

音楽のよさを考えたりどのように工夫して表現したらよいかを考えたりするために、言語活動だけを行っていても学習は深まらない。常に音や音楽を伴った学習活動をする中で、思考・判断の過程や結果を言語活動などで表することで豊かな音楽表現につながると考える。

## 思いや意図、楽曲のよさなどを適切に伝え合ったり共有したりするためには？→共通の音楽の言葉が必要

音楽科で言語活動を充実させるためには、共通の音楽の言葉が必要になる。例えば〔共通事項〕に示されている音色、リズム、旋律、速度、強弱、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素、音符や休符、記号、そしてリタルダンドやディミヌエンドなどの音楽に関わる用語などがそれに当たる。音楽活動を通して、このような音楽を表す言葉を生徒同士が共有し、活用できるようにすることが、生徒の思考や判断を促し、言葉で音楽表現に対する思いや意図などを伝え合うことに有効に働くと考える。

## 【参考・引用文献】

文部科学省『中学校学習指導要領（平成20年9月）解説－音楽編－』教育芸術社、2008年

文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～（中学校版）』教育出版、2012年

大熊信彦「音楽教育の指導と評価（平成24年度）【中学校版】」伝達講習資料、2012年

大熊信彦「音楽教育における学力をどう捉えるか」『中等教育資料（平成25年11月）』ぎょうせい、2013年